

	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 算数を学ぶ楽しさを感じているが、自分でよく考えて発表したり、生活に結び付けて生かしたりする児童が少ないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解が難しい課題に対して消極的な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活やその後の学習に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学ぶことのよさに気付いているが、苦手意識のある問題に対して取り組む意欲が低い児童がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさに気付いているが、生活場面と結び付けるこのできない児童が多くいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさに気付いているが、多面的に捉え検討し、生活や学習に活用できない児童がいること。
授業の改善策	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数の合成・分解を（特に10までの数）を繰り返し練習する。 計算カードを活用し、反復練習の習慣を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に長さを測る活動など算数的活動を多く取り入れる。 繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で既習事項の復習の機会を設けるなどして、定着を図る。 手遊びゲームやフラッシュカードなどの活動を繰り返し取り入れ、数の分解・合成・正確な九九を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で既習事項に繰り返し触れるなどを通して、定着を図る。 毎時間、前時の振り返りを行い知識・技能の定着を図る。 単元計画を見直し、必要に応じて、復習の時間等を増やすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を活用し、小学校で学んだ四則演算（特に小数のわり算）や（ ）の混じった計算の基礎基本や計算順序を確実に身に付ける。 単元計画を見直し、必要に応じて、復習の時間等を増やすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだ四則演算（特に小数のわり算）などの基礎基本を確実に身に付ける。 整数の性質は、具体的な場面に即して指導し、特に意味の理解を図れるように繰り返し指導する。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して文章を読んだり、絵やアレイ図、言葉に表したりしながら、題意を理解し演算決定や立式ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話型を提示し、順序立てて説明することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を効果的に活用し、時刻や時間について実感を伴って考えるようにする。 文章問題で、分かっていること・求めることに違う下線を引くなどして丁寧にたしかめ、問題場面を正確に把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 着目する視点を明確に示し、自分の考えをもたせる。また、自分の言葉で説明ができるように、説明する時間を設定する。 自力解決が難しい場合は、学び合いの時間を増やし、自分の言葉で解決方法を伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 円グラフや帯グラフの学習で、折れ線グラフに表したり、読み取ったりする活動の時間を入れる。 解決方法や結果について見通しをもたせ、既習事項を活用して、自分の言葉で説明できる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を活用して、数量の関係や立式の根拠を説明する活動の時間を多くする。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と結び付けて考える習慣付けを図る。 算数を学ぶことが楽しいことを実感し、自分の考えを安心して発表できるような雰囲気づくりを行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な問題から取り組ませるようにし、自分の考えに自信をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した事項について自分の言葉でまとめ、分かったことを書かせる。 日常生活に生かせる場面を紹介して意識付かせたり、見付けて気付かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合わせた指導計画を作成したり、授業中に声掛けたり、補習などで習熟させることで、前向きに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元と関連する既習事項を想起させ、定着を図りながら理解を深める指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数での学び合いを通して、生活や学習に生かせるような気付きを得る機会を設ける。